

# 低コストで効率的な施業の推進に向けて

～伐採と造林の一貫作業への取り組み～

十勝西部森林管理署

## 現状と課題

### 【現状】

- 地域のカラマツを中心とした人工林が主伐期を迎えている。
- 既に伐採している林分でも造林未済地が多い。
- 林業労働力（特に造林労働力）が不足。

### 【課題】

これまでの間伐中心の施業から主伐（更新）の施業が多くなる一方、造林労働力が不足している中で、造林作業の低コスト化・省力化が重要な課題。

## これまでの取組

これまで、「低コストで安定的に木材を供給する」「安全作業と省力化に資する」という観点から、十勝総合振興局と連携・協力しながら列状間伐の推進・普及に取り組んできた。



列状間伐(道有林)



林家のカラマツ林

昨年度「更なる取り組み」として、民有林関係者から新たにコンテナ苗等の活用による低コストな森林整備に向けた取り組みも進めてほしいとの要望があり、コンテナ苗に係る現地検討会等を十勝管内の自治体、森林組合等を対象に開催してきたところである。

## 平成28年度の取り組み結果



### 1 一貫作業に関する取組

一貫作業及びコンテナ苗について、工程やコスト等に関するデータを整理・分析し、その効果や課題等を把握するため、以下について取り組んだ。

- ① これまで植栽したコンテナ苗の活着・生長状況について調査を実施した。結果は以下のとおり。
  - ・活着率 トマツ 86%～100%
  - ・生長量 トマツ 14.7～21.7cm/年
- ② 一貫作業による低コスト化について検証するため、予定価格において従来作業とのコスト比較を行ったが、それほど大きな差は得られなかった。これについては、事業全体に占める造林事業の比率が小さいことも一因であると考えられる。
- ③ 地拵え時に大型機械によるササの根茎除去を行い、その後の下層植生の回復状況等について29年度に検証する予定である。

### 2 低密度植栽の実施

低密度植栽を試験的に実施（1000本/ha・クローチのコンテナ苗）。今後、生育状況等について観察していく。

## 将来の目標

造林の低コスト化に向けて、今後は一貫作業のみならず、低密度植栽、コンテナ苗の拡大、列状間伐の普及など幅広く取り組む。